

総合理学研究所「年報 93、94」の刊行に当たって

総合理学研究所 所長 杉谷嘉則

このたび総合理学研究所の「年報 93、94」が刊行される運びとなりました。所員一同、共にこれを慶びたいと存じます。

前回の年報は平成 5 年 3 月に刊行され、あれから丸 2 年が経ちました。この間に特筆すべきは、研究所の名称が「知識情報研究所」から「総合理学研究所」に変わったことであります。これと同時に研究所の規定も改訂されました。また、所長も藤原鎮男（元）教授から、昨年度の門屋 卓（元）教授へ、そして今年杉谷へと交代しました。かようなわけで研究所としてもめまぐるしい時期を経たもので、よって昨年は年報刊行を見送り、今回まとめて、「年報 93、94」とさせていただきました。ただしこの中には、93 年度分については事業報告は記載されていますが、他の全般的なことに関しては 94 年度に係わるものが主になっています。よろしくご了承のほどお願い申し上げます。

研究所の名称変更に関して申し添えますと、これはこんどの新しい名称が、今の研究所の実体を素直に表わしているのではないかという考えによるものです。前の名称も先進的で捨てがたいものがありましたが、ややもすると情報関係の研究機関のことかと誤解され易かったので、このように改称したものです。つまり、これにより研究所の基本理念を変えたわけではなく、これまで同様、広く理学系の共同研究と広報活動を行い、学問の発展に寄与することを目的としています。研究所の英語名は Rsearch Institute for Integrated Science (RIIS) となりました。

前述の通り、名称が変わっても研究所の中味がとくに変わったわけではありません。ただし、念のため、研究所の簡単な性格づけを致しておきたいと存じます。

研究所の目的は、「共同研究の推進」と「広報活動」にあります。研究所が推進する共同研究とは、学科内あるいは学科間にまたがる形で複数の研究者がグループを組み、必要によっては学外あるいは海外からの研究者をも混えて、より広範のシステムで特定のテーマの研究を進めるものがあります。従ってテーマも個々の研究者が扱うようなものより、やや広域的、境界領域的なものになります。

現在のところ、共同研究推進の大きな柱として、

（１）海洋資源活用、 （２）環境保全  
の二つを掲げています。これらが研究所の当面のメインテーマであり、な

るべくこれに沿ったかたちで共同研究が進めようとしています。前者のテーマについては、本学理学部の教員が何らかの意味で海洋につながるのがある人が割合多い、ということとも関係しています。後者のテーマは現代の地球的規模での関心事と申せましょう。

一方、研究所のもう一つ別の目的は、広報活動であり、これは研究所が学内と学外の学術交流の接点として機能しようとするものです。具体的には、講演会、講習会、あるいはフォーラムといった各種の行事を開催して、学内においては研究者間の知的交流、そして対外的には大学と学外との交流をはかり、さらには大学から地域に向けて知的サービスを行うという役割です。この場合の地域としては、平塚市、神奈川県、そして首都圏などを想定しています。また対象の人々としては、市や県下の住民、中・高・大学の教員、さらに首都圏の民間および公共研究機関の研究者、等々です。

これまでにいろいろなテーマで講習会やセミナーを開催して参りましたが、

(i) 包装フォーラム

(ii) 機器分析講習会

(iii) 平塚シンポジウム（化学科と共催）

などが定例的に開かれるようになっていきます。講師は本学教員や、全国の大学・研究機関の研究者などです。

これらの活動報告が本年報にまとめられています。ご覧いただき、ご意見等いただければ幸いです。総合理学研究所の発展のためにも、皆様方の積極的なご支援、ご協力をお願い申し上げます。